

当別高校 私たち 国際協力 クラブです!

平成9年10月「世界のために何かしたい」と女子生徒8人が地理の授業の後に集まった。授業の内容は、私がJICAの主催する高校教師海外派遣研修で中米パナマ共和国で撮った貧困に苦しみながらも明るく生きる人々のスライドを見た後であった。その後、活動は現在まで後輩たちの「世界のために」という思いによるバトンタッチで創部8年目を迎えている。主な活動内容は「世界に友達を」とする国際交流活動、「世界に笑顔を」とする国際ボランティア活動の2本の柱である。国際交流では、青年海外協力隊の方々を介して日本に興味を持っていたり、日本語を学ぶ方々と文通などを行っている。国際ボランティアでは、世界の笑顔の為に年間約20本を越える企画を組み活動をしている。

北海道当別高校国際協力クラブ
顧問 田辺孝規

地雷を花にプロジェクト

本校の農業科の先生方に指導を受け、生徒が種を蒔き、移植し、花苗を育て、それを地域の方々に手刷りのチラシを配り、販売をする。売上金を地雷撤去の活動をする団体へ寄付をしている。生徒が汗をして、花を育て、販売し、募金する。地域には花の輪が広がるとともに、地雷撤去に対する意識が少しずつ広がっている。毎年恒例で販売日には長蛇の行列ができ、思いを込めた手作りの花苗が販売される。生徒には大変励みになるのである。自分の行動で地雷が減ることを考えて。



「地雷を花にプロジェクト」にやってきた人々の長い行列



「地雷を花にプロジェクト」に向けて花の種を蒔いて準備

アフガンマドレーヌ

地雷撤去の活動を行っていたところから、アフガニスタンで地雷撤去活動をしていたアフガニスタン出身の方の講演会を行った。その後、ニューヨークでのテロ事件をきっかけに連絡があった。アフガニスタンで難民が大量に発生しているので支援してほしいとの内容であった。私たちは、それまでユネスコ寺子屋基金に募金をするためにマドレーヌを焼き、校内を中心に販売していた活動を、急速アフガン支援に切り替え、その活動は今も続いている。人々の心にアフガニスタンが再び忘れられてしまわぬように、支援活動



アフガニスタン支援の行事で販売するマドレーヌ作りに取り組む

は今も続く。同様にイラク難民支援にクッキーを、パレスチナ難民支援にパンプキンケーキをそれぞれ作成、部員が汗を流しながら作ったそれぞれのお菓子は、翌日には校内で販売され、行列ができる形で完売する。材料費を除いた金額がそのまま募金となる。多い時には300人分の作成となり、50円で販売されるお菓子によって放課後の生徒はおなかを満たして笑顔となり、募金したことによる満足感の笑顔になる。それを見て部員たちはさらに笑顔になり、次の活動への思いを強くする。笑顔の元はやはり人の喜んでいる姿である。そしてその金額が団体に活動する人々たちを笑顔にし、最後は現地でも苦しむ世界中の人々を笑顔にしていける。笑顔の連鎖が始まる。毎週実施しても笑顔が行き交う行列のできる募金会場となるのである。